

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 守屋 寛之

作成日 2024年2月26日

【責任】

社会薬学部門薬事管理学分野に所属し、専門科目である薬事関係法規・制度を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、薬事関連法制論Ⅰ、薬剤師実務関連科目（臨床薬学Ⅰ、臨床薬学実習Ⅰ、臨床薬学実習Ⅳ、臨床薬学実習Ⅴ及びアドバンスト演習）、総合演習Ⅰ、総合演習Ⅱ及び卒業研究の担当、薬剤師国家試験委員会およびOSCE実施小委員会の委員である。

【理念】

薬剤師は日々進歩する医療に対応するため、卒業後も生涯学習が必要である。このことから、学生にはまず薬学や薬剤師に対する興味・関心を持って欲しいと思っている。しかしながら、私が担当する科目である薬事関連法制論Ⅰは、難解な法律用語や条文独特な言い回しが多数用いられており、これらを如何にわかりやすく説明することが私の教員としての第一の使命であると考えている。

一方、医療現場で活躍する薬剤師になるためには、薬剤師国家試験への合格が薬剤師免許の必須要件である。薬学部の教員として、この薬剤師国家試験の合格率を高い位置にキープすることが求められる。薬剤師国家試験問題は近年、応用力が問われるようになり、丸暗記のみの学修では合格することが困難である。この困難に打ち勝った応用力のある多くの薬剤師を養成したいと考えている。

他方、医療現場において薬剤師は、患者との会話のみならず、医師や看護師などの他職種と連携して医療を提供しなければならない。そのため、薬剤師には高いコミュニケーション能力も求められており、他職種等と積極的に患者情報等を共有することができる薬剤師を養成したい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「授業の理解度を高める」、「復習を施す」、「国家試験問題の傾向を知る」、「質問や発言の機会を多く作る」という方針で教育している。

「授業の理解度を高める」

・授業では、まず話し方に気を配っている。話すスピードは、普段の会話よりゆっくり話すことにより、聞きやすくなると考えている。また、重要な箇所は大きな声で話して強調し、また何度か繰り返し説明するように心掛けている。さらに、学生の集中力低下を防ぐため、90分の講義は、約30分おきに質問等の時間を入れて授業を行っている。

・授業は教科書ではなく、自身が作成したパワーポイント主体で実施している。このパワーのスライドを見やすくするため、スライド1枚に使用する文字数を少なめにすることに気を配っている。また、スライド内の重要箇所は色で強調しているが、配色が多くなると見にくくなると考えられることから、最大で4色程度に留めている。フォントはゴシックタイプ（Meiryō UI）を使用している。

・薬剤師の実務に関する内容（処方監査や薬袋作成など）については、可能な限り演習形式を取り入れ、学生にそれを実際に体験させることにより、単なる暗記とならないように心掛けている。

- ・法改正が教科書に反映されていないことがあるため、可能な限り毎日、日本政府から国民へ対する法改正等の伝達手段である「インターネット官報」をチェックするようにしている。
- ・実技や手技に関する事項は動画を撮影し、学内での対面実習前に何度も繰り返し閲覧できるように Moodle 上にアップロードしている。

- ・実習では、スチューデント・アシスタント（SA）を積極的に活用しており、教員主体ではなく SA 主体で実習を行っている。

「復習を施す」

- ・授業に使用するスライド内には、必ず教科書のページ数を挿入し、授業後も復習しやすいようにリンクさせている。

- ・授業区分が半分終了した段階で中間試験を実施し、その採点結果は希望者に対し成績開示を行っている。

「国家試験問題の傾向を知る」

- ・教科書内に薬剤師国家試験の過去問題が掲載されていることから、約 30 分おきの説明後にそれらの問題を解くようにしている。

- ・薬事関連法制論は 4 年次開講のため、以降の法改正部分については、6 年次の総合演習Ⅱで補足説明している。

「質問や発言の機会を多く作る」

- ・授業中、質問や発言しやすい雰囲気を作るため、学生の名前と顔を一致させるよう努めている。

- ・質問は E メールでも受けつけ、さらに Zoom でも対応する旨を伝えた。

【成果・評価】

- ・複数の学生から、難解な法律用語等の説明がわかりやすかったとのコメントがあった。

- ・授業評価アンケート結果は高評価であり、特にスライドが見やすかったとのコメントが多かった。

- ・講義内での薬剤師実務の演習が高評価であった。

- ・薬学部 FD 委員会による授業参観の結果、特に Moodle の見やすさ、スライド内への教科書ページ数の挿入などの対応が評価された。

- ・中間試験の成績開示を希望する学生が多く、よい復習になると好評であった。

- ・SA を担当した学生から、教えることによって色々考える力が身に付いたとのコメントがあった。

- ・SA から教わることで、学修意欲が高まったとのコメントがあった。

【目標】

短期目標

- ・昨年度より、臨床現場の具体例を取り入れた講義を行う。2024 年

- ・Moodle の操作方法を学習し、より学生に活用しやすいツールとする。2024 年

- ・授業中タブレット等を活用し、よりわかりやすい説明を行う。2024 年

長期目標

- ・次の世代の薬剤師教育を重要視する薬剤師を養成する。

- ・薬剤師国家試験の合格率を 95%以上に上げる。